ホームサイスモメータ及び次世代緊急地震速報システムの開発

▲ホームサイスモ端末

企　業／株式会社エイツー
研究者／堀内　茂木（独立行政法人防災科学技術研究所
総括主任研究員）

気象庁発表の緊急地震速報は、初期微動「P波」を観測し、被害をもたらす大きな揺れ「S波」が到達する前に警報を出すものであるが、震源に近い場所では緊急地震速報が間に合わないこと、震度推定の誤差が大きいという問題がある。

この問題を解決する為、安価な地震計の機能を有する緊急地震速報受信機（HomeSeismo端末）および地震解析サーバーを開発し、インターネット回線あるいはフレッツ網を用い高密度で各地に設置された端末とリアルタイムに情報をやりとりできるシステムを構築した。HomeSeismo端末は、それ自身がP波を検知する事が出来るため、地震発生に対して気象庁の緊急地震速報と端末ネットワークの２ルートから情報を取得するため、より早く、より正確に地震の発生を知らせる事が出来る。

全国に本HomeSeismo端末が設置される事によって、高密度の地震観測網が整備される事になり、精度の高い直下型地震の防災効果が期待できる。更には余震などの二次災害の軽減や、建物被害の想定、災害状況の把握が可能になり、耐震対策や震災発生後の救助復旧にも効果が期待される。